別紙４

● 世界の主な火山活動

平成 22 年（2010 年）５月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

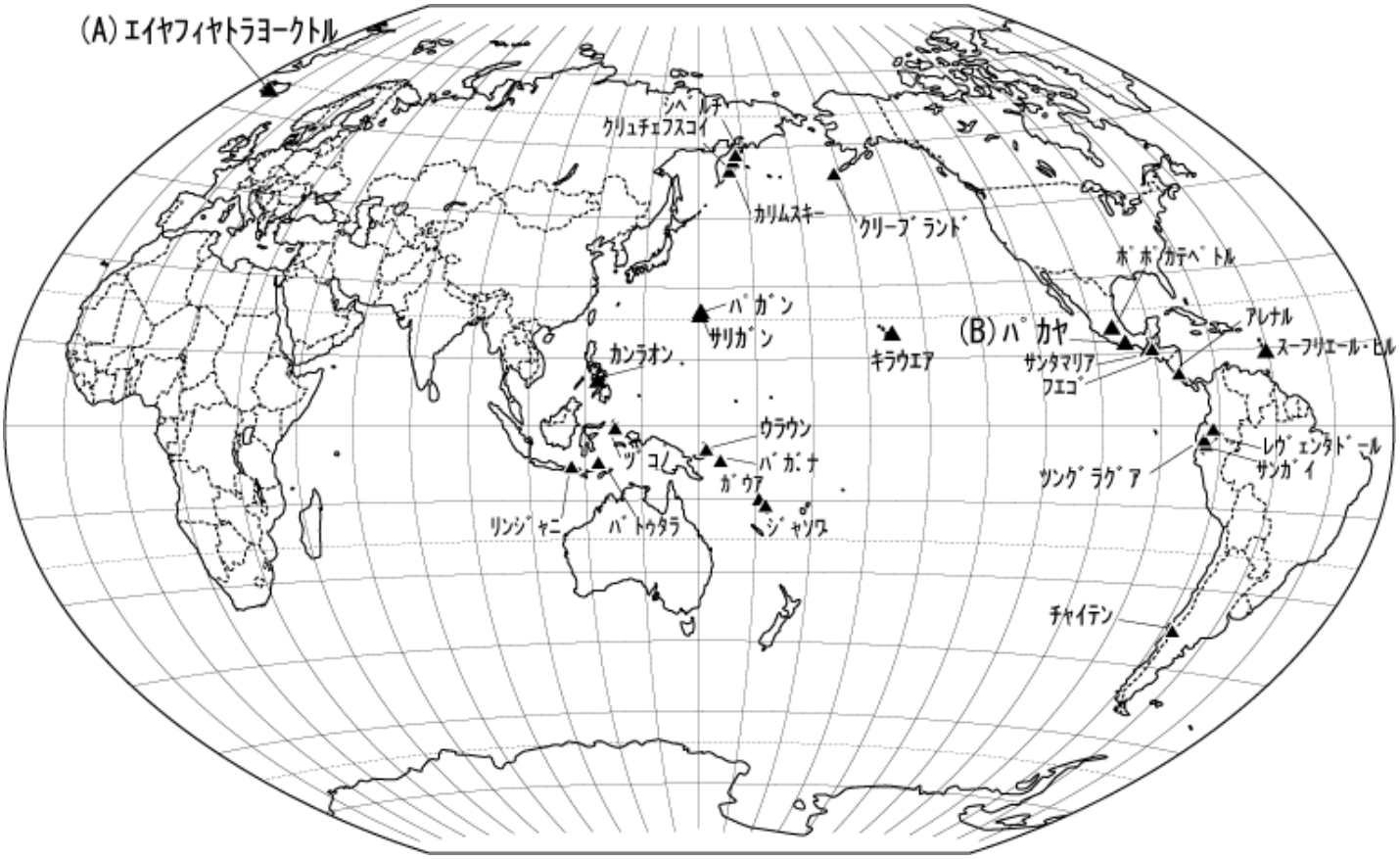
エイヤフィヤトラヨークトル（アイスランド）（図中Ａ）

４月に活発化した火山活動は、５月も継続した。山頂火口からの火山灰は海抜４～９km（13,100～29,500 フィート）まで上がり、風向きによって各方位へと流れた。この間、ヨーロッパ各国では火山灰の影響により、時折、航空便の欠航や空港の閉鎖が行われた。

５月５～６日にかけて溶岩流出が減少し、溶岩流の前進は止まった。一方、６～７日には多量の降灰が 55～70km 離れた場所であった。19 日の激しい雨に伴って泥流が発生した。

19 日以降、活動は全般的に衰えてきたが、噴火は継続し 31 日にもアイスランド南西部で降灰が確認されている。

パカヤ（グアテマラ）（図中Ｂ）

マッケニー・コーンで、5 月 27 日に上空 500m に連続的に火砕物を放出するストロンボリ式噴火が始まった。28 日には火口上１km に黒色噴煙を噴出する一連の噴火が継続し、火山灰は風下に 20～30km 流れ、西から北北東域の６都市で約 1600 人が避難し、オーロラ国際空港が閉鎖された。１人の死亡と３人の行方不明が報じられている。29 日には溶岩が火口から南に２～2.5km 流下した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館のＧＶＰ（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）